

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市自殺対策協議会 (令和7年度 第2回)		
事務局 (担当課)		精神保健福祉課 電話042-769-9813 (直通)		
開催日時		令和8年2月16日(月) 午前10時～午前11時15分		
開催場所		相模原市立産業会館 4階 懇談室		
出席者	委員	13人 (別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	5人 (精神保健福祉課長、他4人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 市民アンケート調査について  (2) 第4次相模原市自殺総合対策の推進のための行動計画策定スケジュールについて  (3) その他 ・自殺対策強化月間(3月)について		

## 議 事 の 要 旨

### (1) 市民アンケート調査について

精神保健福祉課から資料1に沿って説明を行った。

#### <意見等>

(熱田委員) 事前に読ませていただいた中で、気がついたことが3点ある。

まず1つが、対象者が20歳以上ということになっているが、若年層の自殺がなかなか減らない現状を考えれば、選挙権も18歳からあるわけだから、18歳からという見直しも必要ではないか。

また、10ページの間22-2で相談したことがあると答えた方の相談相手について、現状の内容でも良いかと思うが、時代が時代のため、いわゆるSNSとか、あるいは適切かどうか分からないが、例えば宗教とか、そのようなところに救いを求める方もいるのかなと感じる。そんな選択肢も入れても良いかなと思った。

次に11ページ目の間23について、もし身近な人から死にたいと打ち明けられたらどのように対応しますかということで、これも現状の内容でも良いかと思うが、8番のその他で、多分、今までに回収した回答で入っているものがあるのではないかと思う。あえて言葉として出しておいた方が、こういった場合にはこういう方法がありますよということをお分かっていたくために、追加しても良いかなと思う。

言葉としては、「信頼できる人に情報共有して助言を求める。」を入れたらどうか。

実際、打ちあけられた方が自分で背負うには重いので、そういったことを個人情報を意識しながら身近な仲間、友達に相談して、皆で支える。

皆でどのように対応しようかという、そういう視点があっても良いのかなと思い、提案させていただく。

(会長) ご提案に感謝する。

確かに最もな意見だと思う。

間23の方でその他の下に加えてほしいということだが、具体的に入れることによって回答者へのアドバイスになる。

これについての意見でも良いし、さらに他の意見でもいただきたい。

他に特に意見がなければ、今、熱田委員からいただいた、この年齢の件について、18歳以上とした方が良いか、もっと若年層、中高生とか。できる限りこの10代への問いがあれば良いということか。10歳から19歳とかの間でそのようなものがあればと考える。

相談のところでは、SNSや宗教という、もう一項目選択肢があったほうが良いのではないかとこと。

また、問23のところ、具体的に対応方法が挙げたらどうかという意見である。皆さん具体的な対応方法について、何か良いご意見があれば、事務局のほうにメールかファックスでいただければと思われる。よろしく願います。

(秋山委員) 7ページだが、問18で、あなたは、次の市内の相談機関等をご存じですかという質問がある。おそらく対象となった市民の方が3,000人いるとのことで、皆さんこのアンケートに目を通すと思うが、例えば身近に悩んでいる人がいて、どうしたらアドバイスができるのかという方もいると思うが、そうなったときに、問18を見ると、「あ、ここで相談にのってくれるんだな」というのが分かるかと思う。

ある意味、アンケートであるが、相談機関はここにありますよという、ある意味周知するという一つの手段になっている。アンケートを配られるときに、全部の連絡先を載せるというのはできないと思うが、アンケートとともに、こういった場面にあなたが立ち会うことになったら、こういった相談場所がありますよという、リーフレットも一緒に入れてはいかがか。

(会長) 実際にはこのアンケートを配布するとき、ほかの付属資料とかも同封しているか。

(精神課) おそらくアンケートの調査表のみで、それ以外のものは入れていない。

秋山委員から聞き、そういったところでの相談先の周知ということで、アンケート調査だけではなく、情報提供の意味も含めて、相談先の一覧などがあれば同封するのも1つの方法かと思うので、実施する際はそういった部分を検討していきたい。

(会長) やはりせつかく郵送して周知できる機会ではあるので、そういったものがあつた方が良いかと思う。

(加藤委員) 良し悪しは別であるが、相談先にAIを使っている若い方が結構いるということで、そういう傾向を把握できた方が良いかと思う。

問10だが、相談できる人と、「人」となっているので、ここは修正が必要かと思う。

(会長) 確かにそうである。

いろいろなことを今AIですぐに聞ける時代になっているので、確かに人に限らず相談先としても良いのかもしれない。

(岡田委員)

先ほど出た問18のところであるが、私が地域産業保健センターでお世話になるようになってから、もう何回か電話を受けたことがあるが、皆さん冒頭で言われるのが、「どこへ相談したら良いのかがよくわからない」ということである。話を聞き始めると、それはちょっとうちとは違うなと思うこともある。

問18のところを見て、改めて思ったのが、明らかにここに相談するのはこういったことだろうと分かるものがあれば、本当に死にたいと思っている人が、自分はどこに相談したら良いんだろうというのを見た時に、うまく言えないが、例えば11番だと、DVに関する相談はここで良いんだなとというのが分かるし、1番だと高齢者とか障害者で問題を抱えてる人は1番を頼れば良い、あるいは子供の虐待についてだったら6番かなとか分かるが、本当に死にたいと思っている人にはどこをご案内したら良いのかという、難しいとは思いますが、そういった、一言があると、より良いのかなと思う。

(会長) どういったときにここを利用するんだというような一言があればということか。

今回一応、パンフレットもまた変わる可能性も検討されるというところで、そこも補完できれば良いかなとは思いますが、ただ連絡先のパンフレットにそこまで、どういった場合にどうこうという、具体的な記述はなかったかもしれない。

(岡田委員) 以前の会議でも自治会の方がおっしゃっていたが、まずここへ電話しなさいというのがあって、そこで受けていただいて、あ、その内容だったら、じゃあ6番の子供虐待110番に電話してくださいとか、そういう工夫ができれば良いかと思っている。

(事務局) センターの方で作成している相談先のパンフレットがあるが、これは多分前回の会議でもお話になったと思う。

この中にそれぞれ上の方で心の健康に関する相談であるとか、病気のこと、引きこもり、それぞれ分類して、相談先を載せている。

今言われたような、そういう気持ちが強くてというところのおそらく前もそうだが、119番ではないが、そういうのがあったらどうかという話だと思う。

自殺に至るところまでの、段階というか、それぞれに応じて相談先は変わってくると思うので、なかなか119番的にそういう思いがあったらというところだといのちの電話などがあるが、その辺はどのように分かっていたかというところで、工夫なり、そういったことを考えていきたいと思う。

(会長) もう死にたいという状況が迫ってる中で、どこの分類のどこに電話しようと

いうのはなかなか判断が難しいところではあるので、ここに電話してもらえれば適切な相談場所を案内しますというものがあれば良いかなと思う。

(相馬委員) このアンケート、パソコンで事前に見たが、問10とか11にコロナのことがかなり言及されており、令和8年度のアンケートとすると、ちょっともうここは済んでいるかなという印象を受けたので、ここの箇所の扱いをちょっと変えた方が良いかなと思った。

(2) 第4次相模原市自殺総合対策の推進のための行動計画策定スケジュールについて

精神保健福祉課から資料2に沿って説明を行った。

<意見等>

なし

(3) その他

・自殺対策強化月間(3月)について

精神保健福祉センターから参考資料に沿って説明を行った。

<意見等>

なし

(会長) 今日の会議全体を通してのご意見、ご質問、また、この場で発表したいこととかあればお願いしたい。

(岡田委員) 市の行動計画の目標の中に、ゲートキーパーの受講者を増やすというものがあつた。それをもう少しアンケートの中でPRできるようなところがあつても良いのかなと思った。

例えば先ほどちょっと言った問18の機関ではないが、その他としてゲートキーパー受講者とか、あるいは、あなたの周りにゲートキーパーはいますかとか、ゲートキーパーというものをもうちょっと出しても良いかなと思った。

(会長) ゲートキーパーに対する周知もこの場で行つても良いのではないかということ。

アンケートと言えど、郵送料を払つて市民の皆さんにお送りするので、やはり何か

できる場であることは確かなので、積極的に周知した方が良いのではないかというの  
は間違いないと思う。

皆さん、今日は、委員の任期の最終日ということなので、一言もらえればと思う。

(福本委員) 自殺総合対策等については、警察は推進をするという形の活動はあまり  
行っていないが、我々の取り扱いの中でやはり自殺を企図するような方の扱いは非常  
に多いので、本当に若い方から高齢の方とか、自殺をしようと思う原因は、その年代  
と性別、置かれた境遇とで様々な現状はある。

警察としても、取り組むというよりも、情報提供的な意見ということになるので、  
参考にしていただければと思う。

(秋山委員) 神奈川新聞で相模原の地域を担当しているが、新聞記事の中では、人が  
亡くなられたとき取材をした際、自殺という言葉を使わないことになっている。

あくまで亡くなったということで記事にしているが、最近、いろいろ電車関係の軌  
道事故などで、亡くなっている方もいらっしやって、身近な問題になっていることを  
最近非常に感じている。

今2月だが、まもなく3月の卒業式で、4月になると、子供たちも進学したり、卒  
業して就職されて環境も変わるということが、一斉に増えていく。

4月5月はおそらく非常に不安定な感じになるのかなと思っていて、さっきのアン  
ケートの話もあるが、、やはり4月5月、心が不安定になり、皆さんどうしたら良いの  
かなと思う時期に、いろいろなPRが届くと良いなと思う。

(栗林委員) 私の周りにも自殺をした人が多い。

けれどもやはり福祉計画とかこうした行動計画の策定に、当事者に入っただく  
か、そうした意見を反映させていくことは、いろいろな関係者がいることから非常に  
難しいことだと感じている。

当事者サイドの人たちと協議会委員メンバーの違いは多くあることを考えていた  
だきたいと思う。

例えばアンケートとかもおそらく今、本当に苦しい、しんどいという人は、アンケ  
ートを書いて送付することはできないと思う。例えば知り合いが死んだりしていると、  
それをどう処理して良いかっていうのはやはり計画を見てても思う。

死んじゃったあの人は馬鹿だったということなのかとか思ってしまう。

だから、こうした問題は、そことの距離、社会からちょっと外れている人と、社会  
の中心にいる人の間を埋め合わせるように考えていかなければならない。

基礎自治体単位の議論なので、そういったプライベートな、私的な領域の対話に落  
とし込むことは難しいと思うが、私的な領域の対話というものを、もう少し、社会の

側から歩み寄って進めていかないといけないと思う。

そういうことが自殺を防止することにつながるし、知らなければ良いわけではない。

社会的に死亡してる方とかも一定数いるので、そういった方々にも歩み寄っていくために、常にそういった部分にも意識を向けていくことが委員にも求められていることを強く感じる任期だった。

(井上委員)

私自身も大学生でゲートキーパーの講習もやって、それがきっかけでこういう協議会に参加させていただいた。

心の病気を抱えた人が身近にいたことがきっかけでゲートキーパーにも参加したが、心が弱ってる人などにどう接したら良いんだろうとすごく考えていて、心が弱っている人は、どう助けられたら良いんだろうと、自分自身考える。

そういう人が周りにいたら、こうしてあげたら良いんじゃないと自分からアドバイスできるのも良いんじゃないかと思っている。

皆様から話をたくさん聞いてとても勉強になった。

これからもできることはあまりないかもしれないが、身近なところから助けられる人を助けられたらと思う。

(熱田委員) 2つお話をお伝えしたいところがある。

1つは、実は自殺対策に10数年以上、関わってきている。

始めた時には、年間の自殺者が3万人以上という数字だったが、昨年、2万人を切ったということで、本当に取り組めば、必ず形として結果が出てくることが証明されたなということを実感している。

継続することが力だと思う。

前回、この会議でも提案させていただいたが、心のサポーター、ゲートキーパー、毎年毎年、市も頑張っているいろいろな方に受けていただいて、新しい人が増えていると思うが、長年やっているとだんだん意識が薄れていってしまうので、やはりそういった中でシンポジウムみたいなことを、毎年でなくても良いので、2年に1回とかそういった形でゲートキーパーさんに案内を郵便で出すだけでも、あ、自分はそれやっていたなとか思い出すと思うので、そういったことも考えていただければと思う。

もう1つは、私は、障害のあるお子さん、障害者の方の相談の計画を作っているわけだが、実際に不登校、引きこもり、または心の病気になって休職されている方とかいるが、やはり自殺対策にすごく関わるところがあって、人間って私たち全員そうだと思うが、安全で安心で居心地が良い、この3要素はすごく大事だと思っている。

それがなければ、たぶん仕事にも行けないし、学校にも行けないし、家自体が安心、

安全でなければそこにもいられない。

安全、安心、居心地、この3つを考えていく中で、それを作ってあげることで孤独が改善されるし、将来の不安が解消されるし、家族関係の調整ができる。

その中で、自殺対策とは、生きることを支える、生きづらさをみんなで支えることがキーワードだと思うので、安全で安心で居心地の良い社会にできたらよいと思う。

今回委員は終わるが、何かの形でお手伝いさせていただければと思う。

(岡田委員) 自殺対策に関して思うことだが、市の関係機関を始め、今日出席の関係の皆さんの努力もあって、結果、取り組んできたことなどの報告を見ると、物凄くいろいろなことに取り組んでいて素晴らしいことだとは思いますが、相模原でも100人を超える人が亡くなっている。

その取り組みがまだまだうまく広まっていなくて、どうしてもこう網の目からこぼれてしまう人たちがいるんだなというのを感じており、そういった方たちを救えるようなことをこれからも是非この会を通して、あるいは自分の仕事を通して微力ではあるが、取り組んでいけたらと思っている。

(相馬委員) 皆さん方の話を聞いているのと、そして前回のアンケートを見て、当事者支援に関してというところで、自殺を考えたときに相談しようと思わなかった理由、一番多いのが、他人に相談するようなことではないからや、相談することで周りに心配をかけたくないから、が上位に来ているところで、学校のほうでは、基本的に学期に1回ずつ、アンケートを実施しており、ちょっと気になる子供を皆で共有して支えようという体制をとっている。

それから委員会のほうでは、児童生徒の心身の状態のチェックリストを皆で見ながら、気になる子を支えていこうというのをやっている。ともかくサインを見逃さないようにしている。

様々な相談機関と連携しながらというところだが、子供たちに、人に相談するということは、恥ずかしいことではないんだよ、何でも良いから周りの大人を頼ってほしいということをメッセージとして、常に発信する、していかないと小学校、中学校で、特に小学校は、一番最初に子供たちがある程度人数が多い中で、集団生活を学んでいくなかで、社会性とかいろんなものを身につけていく場所であるので、特に子供たちは、何か辛いことがあっても隠してしまうお子さんもいるので、学校のほうは、サインを見逃さないようにする。

先ほども言ったが、小さいことでも周りの人に発信することを身につけることで、そういう安心感のある学級、学校づくりをしていくことで子供たちも大人になったときに、周りの人を頼って良いんだと感じていただけるような大人になっていくことが、小学校、中学校に課せられた自殺防止対策なのではないかと自らの責任の重さを感謝

しているところである。

(畷住委員) コロナでかなり自殺者が増えたところ、今日減少していると聞いて、本当に良かったと思う。

まだまだ多いと思うが、心の問題なので、例えば自殺したいとか、そういうことを相談されたところで、本人がどこかの相談に行く気がなければ、聞いた人が強制的にどこかに連れてくというわけにもいかないというところもある。本当に難しい問題だと思う。

普段どうしてもどちらかという合理的でロジカルな世界にいるため、なかなか解決が難しい問題だと思う。

それと皆さんがいろいろな機関でいろいろな相談事を受け、いろいろな対策を取られていることにも非常に興味したが、ある意味、例えば生活は厳しいから生活支援課に行こうとかパワハラされたから労働基準監督署に行こうとか、そういう解決するために何かしようとする方だったらまだなんとかなるかもしれないが、例えばトイレに入った時にふっと心の相談センターとかのステッカーみたいなものを見ることがあって、こういうこともやってるんだなと思うが、そういうふとした時にそれが目につくこともすごく弱っている方に大事なことなんだと思っている。

いろいろなところに目に触れるようなものを掲示することを、もっと推進したらどうかかなと思っている。

(戸部委員) 私たちが本当に身近な地域の方も相談相手になっており、どちらかという高齢者の方の相談が多いが、そういう病を抱えたり、最近家族の関わりが薄くなって、お子さんがいてもとても寂しい思いをしてる方も多く、いろいろな病気などが加わると、とても生きるのもつらい状態の方も多いかと思う。

私たちは地域と一緒に住む人間として、そういう方たちに少しでもより添って、そういう方たちが自殺を考えるまではないかもしれないが、セルフネグレクトというか、生きる意欲が喪失し、食べないとか、動かないとか、外に出てこないとか、そういう方を少しでも支えられたらとは思っている。

自分の方は意外に子供たちに接する機会が少ないが、その辺は学校とも連携をし、子供の居場所、学校でも家庭でもない、第3の居場所を今目指していて、いろいろな活動を通じて子供たちにも信頼される大人になるように考えているところである。

これからもま地域の相談される立場として、また見守る立場として活動していきたいと思う。

(加藤委員) 皆さんのいろいろなご意見を参考にさせていただいている。

この協議会の中でも何度かご質問いただいたが、令和3年度、コロナ禍で特に社会

と女性の繋がりが希薄になってしまったということで、女性の繋がりに事業を受託して、県内もふたばROOMという、若い女性の方に集まっていただく、フリースペースを用意し、10代20代の方にお越しいただいて、何でも相談を行っている。

先ほどもあったが、外出しやすい、興味があるような、サンガづくりとかを交えながら、出かけやすい、相談しやすい、そういう環境づくり、居心地の良い場所づくりを定期的に進めている。

前回、ご質問いただいて、何歳ぐらいの方が参加されているかということで、今までの傾向を調べたところ、15歳以下の方が6%、16歳から20歳の方が26%、21歳から25歳の方が29%で、26歳から30歳の方が15%、30歳以上が24%ということで、やはり16歳から25歳の方々が、結構多く参加している傾向にあるが、やはり親に相談できなかつたりとか、友達に遠慮したりとか、そんなことを相談の中で伺うことがある。

こういった草の根的な居場所づくりに努めていきたいということが一つと、あと私委員にならせていただきまして、一番最初に山口副会長が地域で挨拶されているお話を伺い、すごく大切なことだなと思っている。

学校登校の時に、自治会の方、民生委員さん、あるいは地域の方が、おはようと声をかけているが、AIについて、さっきお話させていただいたが、やはりどこか人に頼って欲しいなというのがある。

こうしたことを、一番身近な地域の中でも育てていけたら良いのかなと思っている。

社協としても、子供の頃から地域と縁が作れるような、そういった皆さんの取り組みをサポートさせていただきたいと思っている。

(十川委員) 日々、死にたいという重い電話から、世間話までいろいろ電話を受けているが、やはり世間話の中にも、他に話す人がいない、だから、ここに掛けてくるといふ、深刻な方がたくさんいる。

自殺まではいかないが、すごく苦しい思いをして生きている方、解決しようとする前に、とにかく助けて、今自分こんな困ってるんだって言える力がある人、電話をかけてくる人はまだ良い。

本当に自殺してしまう人は、電話もかけてこない。そっと死んでしまう。ここがちょっと問題で、やはりその方たちを気付いてあげられるというか、私たちもちょっとした心遣いというか、何か変化が見られたときに、今度声をかけてあげることができたら良いと思っている。

(副会長) 最近新聞で小学生、中学生の自殺が非常に多くなってきたという記事を読んだ。

本当にどうしたものかなと感じている。

私の自治会連合会の催しでファミリーバドミントンという、簡単な競技を3人組でチームを作ってやった。

正直言って、昔はあまり見なかった光景が見られるようになった。

私の前にいた小学生が、家族3人でその競技に参加したが、ファミリーバドミントンの1セット目で小学生が泣き出した。

何でかなと思ってずっと見ていたが、自分で打てなかったかとか、自分の思うように羽が取れなかったとか、そういうことを何回か言っている。

そのうち1セットが終わったら、小学生が大泣きしている。

他のところでも見たが、そういう小学生が、かなりいる。

最近、世の中、自己中心的な部分が、多くなってきていると感じている。

親の対応についても、子供を抱いて一所懸命なだめている親もいれば知らん顔している親もいる。いろいろである。

また他の機会では、大人の方だが、ちょっとした会議の中で、ササッと入ってきて、自分が気に入らなければ、怒鳴り散らしてる人がいる。

自殺に繋がる、繋がらないは別として、やはり声がけという形、その前に必ず行動を見ていけば、その子が何かおかしいサインは発している。そのサインをいかに早く察してあげるか。そして、どんな言葉でも良いと思うが、私はいつも言うが、あまり深入りして悩んでいる子に対して、そうだね、そうだねというのはよくないと思っている。悩んでいる子は、自分なりの世界、考え方を持っていてやっているから、それをあまり知らないまま話しかけて、いやこうだよ、ああだよというのはよくないと思う。

それよりも話を聞いてあげて、うん、そうなんだねとあまり言葉をかけないで、ただ単に寄り添うという形の中で、そこから先は相手の方が、この人にこういうふうにやさしくされたと感じる、それだけで良いと思う。

得てすると、ちょっと相談を受けると何でもかんでも、結論じみた言葉にしなきゃいけないと思うことが多いと思うが、私の経験では、やはりそうではなくて、ただ単に寄り添ってあげているよという、それだけで良い。だから、あまりそういう方に深く関わってはいけないというのが私の感想である。

(会長) 皆さんにご意見出していただいて感謝している。

ご意見、1人1人聞いていくといろんな思いを持っていて、こう取り組んでますとか、こういう風にしたら良いのになという思いは皆さんの中にやはりあると思う。

それを皆さんの所属してる団体とかに持ち帰っていただいて、さらに広めていただきたいなということを切に思っている。

司法書士会でも毎回基礎的な研修ももちろん行っており、ゲートキーパー養成的

な、ほとんど法律的な話ではなく、本当に傾聴とか、精神福祉の分野の、こういった場合はこうです、というようなものとか、あとは死にたいですかと聞く訓練をしたり、そういったことを司法書士会でもやっている。

時が経つと1回研修受けても、その時にはこう熱い思いがあってもなかなか時間とともに薄れていくので、やはり継続していくことが大事ということもあるし、また傾聴は本当に大事で、私も司法書士としていろいろな法律相談とかを受けるが、ほとんど自殺対策とかしてると、もう法律では全く解決しませんという話がほとんどである。

相談の場でも8割雑談というか傾聴で、答えももしかしたら出ない場合も結構多い。

電話相談とかだと、本当に法律的な解決はしていないが、お話を聞いてくださってありがとうございます。本当に気持ち楽になりました。と相談者に言われると、本当に良かったなとかなりの頻度で現場で思う。

あと皆さんに情報提供と言うか、成年後見制度が大きく変わるというところで、今まで成年後見は、全て一元化されて、ほとんど後見人で全ての権限が後見人にあるという形だった。まだ法律は成立していないが、後見人制度が「補助」という制度としてまとめられて代理権とか同意権、代理権というのは本人に変わって行うということだが、その辺を本人の同意を得た上で、しかもオーダーメイドで細かく決められて、本人が本当にお願いしたいものだけお願いする制度になる。

今まで後見制度は1度始めるともう本人の判断能力が完全な回復をしないと終わることができなかった。亡くなるか回復しなきゃ終われない。完全な回復はなかなか難しいと思うが、一方で補助人の助ける側の、支援する側の人もやはりいろいろな責任とか、善管注意義務というかなり重い義務を抱えているので、なかなか本人の思い通りにさせてあげることができないジレンマとかもあったが、今後は、必要な時だけ使って終われる制度にこれから変わっていくので、ちょっとした精神疾患に罹られてしまって、何十年も必要ないが、その一時、その行政手続きとか、お金の手続きとかの荷を下ろすということにも、本当に短期間でも使える制度になってくると思うので、もしかしたら自殺対策の一助になるのかなという風に考えている。

実際に、私も必要ないのになと思いつつもやはり仕事なんで、報酬も頂かなければいけないので、必要ないなと思いつつも続けざるを得ないというところもあった。

特に障害者の方とか入られてて、ほとんど後見人とかが出ていく場面がないのに使ったりすることがあるので、本当に遺産分割協議で相続が発生したからやったんだけど、というところでその後、ずっと報酬がかかってしまうと、それも本当に心苦しかったので、そういうことも終わることができる。

今、成年後見制度の転換点にあると思うので、情報として提供させていただいた。

以上

令和7年度相模原市自殺対策協議会 第2回会議（出欠状況）

（令和8年2月16日開催）

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	稲田 健	北里大学医学部		欠席
2	西岡 直子	相模原市医師会		欠席
3	土屋 敦	相模原市病院協会		欠席
4	田中 弘子	相模原市薬剤師会		欠席
5	岡田 眞一郎	相模原地域産業保健センター		出席
6	相馬 圭	相模原市立小中学校長会		出席
7	取住 悦子	相模原商工会議所		出席
8	青木 亜也	神奈川県弁護士会		欠席
9	比留川 昇良	神奈川県司法書士会	会長	出席
10	戸部 恵美子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
11	加藤 健司	相模原市社会福祉協議会		出席
12	山口 信郎	相模原市自治会連合会	副会長	出席
13	十川 いづみ	横浜いのちの電話		出席
14	和泉 貴士	全国自死遺族総合支援センター		欠席
15	熱田 辰雄	公募		出席
16	井上 由子	公募		出席
17	栗林 志誓	公募		出席
18	長屋 明	相模原公共職業安定所		欠席
19	秋山 理砂	神奈川新聞社		出席
20	福本 創一朗	相模原警察署		出席